

クリーンセンターだより



容器包装 お返し大作戦！

市の処理量が約3割減少



買ったお店の「回収ボックス」にペットボトルやトレイなどの資源物をお返しいただく「容器包装お返し大作戦！」。4月からはこれを促すためにペットボトル・トレイ類の市の回収を4週間に1回に変更しましたが、多くの市民の皆さんにご協力いただき、成果が表れています。行政が回収した資源物は、税金を用いて圧縮などの中間処理を行い、その後「容器包装リサイクル協会」へ引き渡していますが、その引渡し量が昨年度と比べて、ペットボトルは30%台前半の減、トレイ類は20%台後半の減になっています。また、市内のスーパーマーケットでは、店頭回収量がおおよそ2倍になったところもあります。

買ったお店への「お返し」に際しては、引き続き各お店のルールをお守りいただき、リサイクルが更に促進されるように、ご協力をお願いします。

目指せ！多摩地区ベスト1

「ごみ量ランキング」 21年度の日野市は？

前号でお知らせしたように、平成21年度のごみ量は、平成21年度の市民1人1日あたりのごみ量（資源物や持込ごみ量を含む）は、720.6gとなりました。平成20年度と比較すると45.9g減になり、平成12年のごみ改革後一番のごみ減量になりました。この成果を多摩地区30市町村のごみの少なさランキングで比較すると、日野市は可燃ごみが第3位（昨年度

3位）、不燃ごみは25位（同25位）、総ごみ量は7位（同10位）、リサイクル率は17位（同19位）でした。ごみ排出量が少ないことは、クリーンセンターでの処理量が少ないことにつながり、施設稼働の負担が軽減される利点にもなります。不燃ごみを中心に、より一層のごみ減量をお願いします。



緊急的支援

小金井市・国立市の家庭の可燃ごみ処理を受入れ

二枚橋衛生組合の解散により処理できない小金井市の可燃ごみについて、「多摩地域ごみ処理広域支援体制実施協定」及び緊急的・人道的な見地からクリーンセンター地元環境対策委員会の合意を得て6月1日から受け入れていきます。これは、平成19年度から継続しているもので、今年度は来年3月末までに最大3千450ト受け入れます。なお、小金井市の可燃ごみは、当市を含めて現在4団体（7市）のごみ処理施設で受け入れています。

また、多摩川衛生組合の施設事故により処理できなかった国立市の可燃ごみも、同様に7月の1ヶ月間で約600ト受け入れました。国立市のごみは、当市と国分寺市で受け入れました。

公害防止に関する測定結果(最新)

当クリーンセンターの公害防止に関する最新の測定結果は下記のとおりです。各項目とも法規制値を下回っています。

排ガス測定	単位	測定値		法規制値
		1号炉 (H22/7/5)	2号炉 (H22/6/1)	
窒素酸化物(12%換算値)	ppm	95	120	250
硫黄酸化物	㎥N/h	0.21	0.34	32
ばいじん量(12%換算値)	g/㎥N	0.003	0.001	0.08
塩化水素(12%換算値)	ppm	不検出	42	430
ダイオキシン類	ng-TEQ/㎥N	0.0079 (H21/9/3)	0.046 (H21/11/5)	1

※ ppmとは、100万分の1を表す単位です。

※ ㎥N (ノーマル立法メートル)とは、標準状態(0℃、1気圧)における気体の体積を表す単位です。

※ TEQとは、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンに毒性等価換算したものです。

※ 不検出とは、分析の限界数値を下回っていることを指し、0ということではありません。



地道な作業で減量と安全に一役買っています

搬入されたごみを「抜き打ち検査」

事業系持ち込みごみに対して、月1回以上抜き打ち検査を実施しています。生ごみやおむつからの悪臭はきついです。分別されていないごみは持ち帰らせるなど、厳しく対応しています。



スプレー缶の穴あけ作業



中身の残ったスプレー缶が原因で、不燃ごみ処理施設が小規模な爆発事故を引き起こすことが、かつてはしばしばありました。

しかし、昨年度からは搬入されたスプレー缶の全てに、手作業で穴あけ作業を行なうことにしました。その結果、爆発事故は全くなくなりました。

クリーンセンターへ見学に来ませんか

- 月曜日～金曜日 45分間程度 ※予約制
- ご希望日時をご相談ください。

申込み・問合せ先 日野市環境共生部クリーンセンター

〒191-0021 東京都日野市石田 1-210-2

☎ 042-581-0444 FAX 042-586-6606

<http://www.city.hino.lg.jp/>

「クリーンセンター」に関するご意見・ご要望もお待ちしております。

7月から8月にかけて、小学1～4年生の親子と、小学5～6年生・中学生を対象にした施設見学のスペシャル版を実施。8回で延べ309人が参加し、ごみの行方や減量の重要性を学びました。

好評でした
夏休みだけの探検隊